

COVID-19 流行下での入院セットサービス導入の意義

～看護師の働き方改革の視点から～

塚田 晃裕¹⁾ 丸橋 ちあき¹⁾ 見田野 直子¹⁾ 甫仮 宏一²⁾ 美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 法人本部 財務・会計課

3) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに] COVID-19 流行により病院には厳しい感染対策が求められ、看護師の業務負担は増大した。一方、家族の面会制限がなされ、患者の生活支援に関して従来の対応を変更せざるを得なかった。

[取り組み] COVID-19 流行以前は入院に必要な物品は家族に持ってきてもらい、衣類の交換は家族取りに来てもらうなど、家族が準備した患者の日用品は看護師が窓口となって対応していた。COVID-19 対策として家族の面会制限が実施されたことに伴い入院セットサービスを導入した。運用は業者に委託、常駐する業者スタッフがセット(病衣、洗面用具、コップなどを選択)の利用法を説明、注文されたセットを看護補助者が患者へ受け渡しする体制とした。

[結果] サービス導入により看護師は「日用品に関する家族への電話連絡や対応が不要になった」などと業務負担の軽減を実感していた。サービス導入は看護師の働き方改革の視点から有用と思われた。